

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	山口県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	下関市立向井小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	50	48	51	56	58	55	0	318	

II 研究の概要

1. 研究主題

**生き生きと活動し、自ら学びとろうとする子どもの育成**  
～確かな学力の向上をめざして（算数を中心に）～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数科  
【選択した理由】

- ・平成14年度に実施した学力テスト（算数）の結果が全体的に全国水準を下回っていたため。
- ・児童の理解の程度に差が出やすい教科であるため。
- ・きめ細かな指導を行うことで、基礎的な学力の向上が大いに期待できる教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

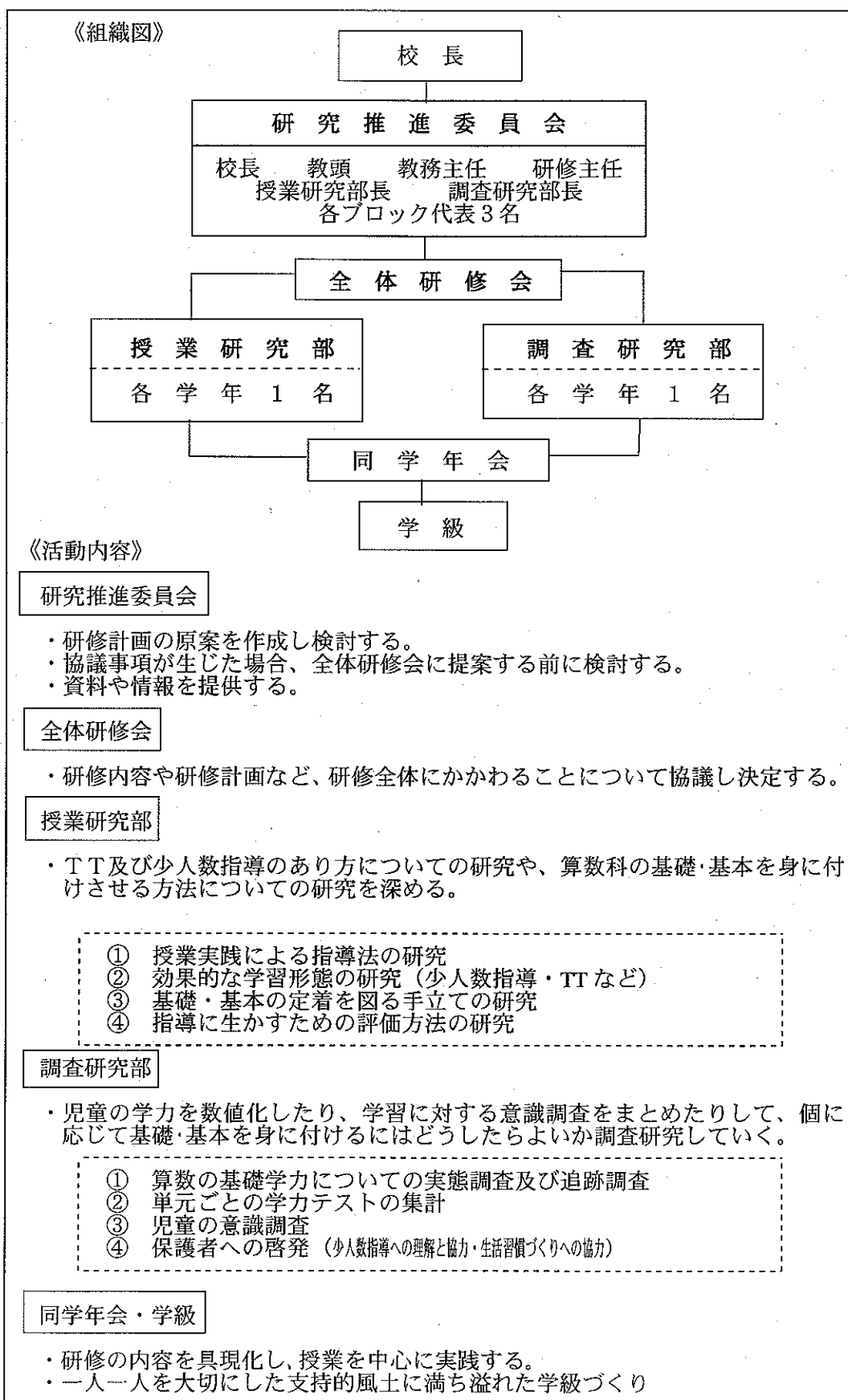
平成15年度	○ テーマ	<b>生き生きと活動し、自ら学びとろうとする子どもの育成</b> ～確かな学力の向上をめざして（算数を中心に）～
	○ 研究の見通し (仮説1)	・児童の実態や学習状況に応じて指導体制や指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が向上し、一人一人の確かな学力の向上を図ることができるであろう。
	(仮説2)	・朝学や授業の中に計算タイムを位置付け継続的に取り組めば、基礎的な計算技能が向上するであろう。
	○ 研究の内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科</li> <li>(2) ねらい</li> <li>(3) 内容</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数を中心に研究を行う。</li> <li>・基礎・基本の定着と確かな学力の向上をめざす。</li> <li>・指導体制と指導方法の工夫を中心に、授業実践を通して研究を行う。</li> <li>・朝学の充実や学習習慣の確立についても研究を行う。</li> </ul>

平成15年度	<p>(4) 主題解明の方法</p> <p>①指導体制の工夫  (各学年2クラスの12クラスで、人数は多いクラスで29名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数指導  3～6年生を対象に、少人数指導担当の教師と担任とで行う。  (少人数担当は2名)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">単純分割型</div> <p>原則として1クラスを2グループに分けて実施する。名簿を基にグループをつくり、どの学年も教師が15名以下の児童を担当することになる。  児童一人一人の発言が増え、学習への集中力が増すことが予想される。また、机間指導における教師の助言もしやすくなり、よりきめ細かい指導が期待できる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">習熟度別型</div> <p>原則として、学年全体を発展的な学習コース、標準的な学習コース、補充的な学習コースの3つに分けて指導する。(1クラスを2つに分けて指導する方法も考えられる。)  コースの選択は原則として児童が選択する。本人の能力と著しく違うコースを選択した場合は、適切なアドバイスをする。  自分にあったペースで学習することができ、児童の中に充実感が出てくることが期待される。学力の上位の児童も発展的な内容に取り組むことができ、学習意欲の持続につながると考えられる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">課題別</div> <p>原則として、学年全体を学習課題別に3つに分けて指導する。(1クラスを2つに分けて指導する方法も考えられる。) 教師または児童が課題を設定し、児童がコースを選択する。自分のやりたい勉強が選べるので学習意欲の向上につながると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>チーム・ティーチングによる指導</b>  1、2年生を対象に、週2時間程度実施する。担任と担当でTTを組み、主に担任がT1を行う。全体指導する人と、児童の様子を観察し支援する人とに分かれて指導することができるので、低学年においては、より効果的であると考えられる。</li> </ul> <p>②指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>作業的・体験的な活動の重視</b>  特に低学年において、具体物を用いて数量や図形についての意味を理解することが大切である。  また、計算が必要となる具体的な場面において、作業的・体験的活動を取り入れることは、計算の意味についての理解を深めるためにとても重要であると考えられる。</li> <li>○ <b>計算の反復練習</b>  百ます計算などの基礎計算の反復練習を大切にしたい。単純な四則計算であってもすぐに答えが出ないと、桁数の多い計算やわり算などのつまずきの原因となるからである。自分なりの時間短縮という目的意識を持たせることで意欲的に取り組むことができるようにする。  また、その学年で確実に身に付けさせたい計算を選び、1年間を通して継続的に取り組むようにする。朝学の時間を有効に活用したい。</li> <li>○ <b>ノート指導</b>  わかりやすいノートづくりをめざし、共通理解事項を決めて指導にあたる。</li> </ul>
--------	--

平成 15 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリントやドリルの活用 問題数が少なくチェックしやすいものは、児童のつまづきを見つけやすくすぐに指導にあたることができ、問題数の多いものは、数多くの問題を解くことで計算技能などを向上させることができる。また、単元ごとに、補充問題や発展問題などのプリントを用意しておき、課題が早くできた児童に与えるようにする。</li> <li>○ 児童の思いを大切にしたい授業の実践 児童の多様な考えを認め、なぜそう考えたかを発言し合う交流の場を確保することが大切である。また、間違いを生かしたり、すばらしい発言をしっかりとほめたりするように心掛ける。授業の主演は子どもたちである。子どもたちの活動をしっかりと保障し、教師主導型の授業にならないように気をつけたい。</li> <li>○ テストの結果を生かした指導 単元ごとのテストを実施した後、よく理解できている内容やつまづきの多い内容を把握し、その後の指導に生かすようにする。また、次年度の学習指導計画立案の参考にする。</li> <li>○ 朝学の充実 ・朝学も大切な学習時間であるということの意識を高める。 ・読む、書く、計算の活動を中心に取り組む。</li> <li>○ 学習規律の確立 ・全ての児童に身に付けさせたいことを共通理解して徹底指導する。</li> </ul>
--------------------	---

平成 16 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>生き生きと活動し、自ら学びとろうとする子どもの育成</b>            ～確かな学力の向上をめざして（算数を中心に）～         </div> </li> <li>○ 研究の見通し (仮説1) ・児童の実態や学習状況に応じて指導方法を工夫すれば、一人一人の確かな学力の向上を図ることができるであろう。 (仮説2) ・児童の学習意欲が高まる教材を開発すれば、児童が主体的に学び確かな学力が向上するであろう。</li> <li>○ 研究の内容・方法 (1) 教科 (2) ねらい (3) 内容 ・算数を中心に研究を行う。 ・児童の主体的な学びと確かな学力の向上をめざす。 ・教材開発と指導方法の工夫・改善を中心に、授業実践を通して研究を行う。</li> <li>(4) 主題解明の方法 ・少人数指導及びTTによる指導の充実 ・算数的活動の研究と積極的な導入 ・児童の思いを大切にしたい授業の実践 ・計算技能向上のための系統的・継続的な取組 ・児童の評価を生かした指導 ・ノート指導及び学習規律の徹底</li> </ul>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- 少人数指導による成果
  - ・個に応じた指導を心掛けたことによって、児童一人一人の学習意欲が高まり、学力の向上（本年度は計算技能が中心）につながった。アンケートの結果からも算数に対する意識の変容がうかがえる。
  - ・一人一人の児童をしっかり見ようとする教師の意識が高まってきた。
- 計算の反復練習による成果
  - ・朝学や授業中に確保した基礎的計算の反復練習により、その効果が確実に現れてきた。児童も自分の伸びが自覚でき、学習意欲の向上にもつながっている。
  - ・学年ごとにいろいろな方法を試みたので、それを検討することで来年度はより効果的なやり方で計画的に実践できる。
- ノート指導による成果
  - ・基本的な使い方が身に付きつつあり、わかりやすいノートづくりをしようと心掛ける児童が増えた。
  - ・間違いを消さずに訂正させることで学習を振り返ることができ、過程の大切さを意識できるようになってきた。

#### 2. 今後の課題

- 少人数指導における学習形態や学習方法のより一層の研究
  - ・本年度は、単純分割型を中心に習熟度別型と課題別型を行ったが、十分な計画性もなく、まずはやってみようということで実践した。どの単元でどの型が効果的なのか、指導計画の立て方、グループ分けの方法、発展的学習の内容などさらに研究を進めていく必要がある。
  - ・TTによる指導の研究が不十分であったので、2人の教師の役割を中心に研究を進めたい。
- 児童主体の授業
  - ・計算技能の向上に重点を置いて取り組んだのはよいが、児童主体の活動が不十分であったように思う。算数的な活動についての研修を深め、さらに算数の楽しさを実感できるように工夫したい。
- 学習規律の確立
  - ・全校共通理解のもと学習規律の確立をめざしたが、まだ十分とはいえない。特に、「話し方」や「聞き方」においては今後さらに指導を続ける必要がある。
- 研究組織の見直し
  - ・「授業研究部」と「調査研究部」に分けて研究を進めようと計画したが、十分に機能できなかった。各部の役割を再検討する必要がある。

### Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

- 学力テストの実施（年1回1月）
- 単元テストの考察……単元テストを考察し、その後の指導に生かす。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 地区協議会での発表
  - ・平成16年1月28日 豊浦町立室津小学校にて開催
  - ・「学力向上フロンティア事業下関地区協議会」において、研究の概要、研究の実際、成果と課題について発表する。
  - ・対象は下関管内の教員及び保護者
- 研究集録の配布
  - ・平成15年度の研究集録を下関管内の全小中学校に配布する。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T. Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無